

## 適正利用・エコツーリズムワーキンググループからの報告

### 1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

過去に提案のあった4件について、取り組み等を進めた。平成26年度においては、②④の提案が新たに条件付き等で承認された。

#### ①知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン（提案者：斜里町観光協会）

平成25年度より主に斜里町で実施。平成26年には実行委員会に羅臼側団体も加え、企業と連携しパンフレットを配布する等積極的な啓発活動を進めている。

#### ②厳冬期の知床五湖エコツアー事業（提案者：斜里町観光協会）

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を、知床五湖まで除雪し、冬期の知床五湖をガイド同伴でまわるエコツアー。知床五湖適正利用協議会が発足し、初年度は平成27年1月22日～3月22日までの60日間で実施予定。

#### ③知床ロングトレイル・プロジェクト（提案者：知床ガイド協議会）

知床自然センター～知床峠間のロングトレイル設置が提案されていたが、提案が取り下げられた。

#### ④赤岩地区昆布ツアー（提案者：羅臼町観光協会）

半島先端部での文化資源を活用した教育ツアー。コンブ漁の歴史と文化について解説を行う。平成26年度から3年間、非営利のモニターツアーとして条件付きで、検討会議の管理下で試行的に実施。

### 2. 個別地域における取り組み状況

#### ○知床五湖における利用調整地区制度の運用

平成26年3月に知床五湖利用適正化計画が改定され、ヒグマ活動期の利用枠の増加、地上遊歩道の限定的な2ルート併用という新制度の運用を行った。

#### ○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成26年度は8月1日～25日及び9月13日～22日の計35日間でマイカー規制を実施。また、平成27年度は8月1日～25日及び9月19日～23日の計30日間でマイカー規制を実施する予定。

#### ○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、海鳥モニタリングや知床海鳥WEEKと銘打った各種イベントを実施。海域観光の充実や収益の環境保全への還元、野生動物と人との適正な関係の周知等を目的として知床ウトロ海のハンドブックを発行し、これまでに約1600冊を販売。

#### ○ホロボツ地区における新規歩道の試験運用

100平方メートル運動地の公開と普及を目的に、知床国立公園ホロボツ地区に4コースの歩道の試験的な設置・供用を実施。平成26年度は、知床国立公園指定50周年事業の

一環として、知床五湖早期閉園後の受け皿となる社会実験と位置付け、18日間実施。エコツーリズム戦略の枠組みの活用も検討を依頼。

### 3. 平成27年度の主な予定

提案の提出状況等に応じ、適正利用・エコツーリズム検討会議を年間1～2回程度、開催予定。

また、岬地区の利用のあり方については「利用の心得」の改定を視野に入れ、別途協議の場を設ける。その際には、「利用の心得」の根拠である「先端部利用適正化基本計画」や「申し合わせ」を基本とし、先端部全体ではなく岬地区に限定して検討する方針。